

認知症の治療法解説

徳大病院フォーラム 4年ぶり対面

認知症とがんに関する最新の治療法などを紹介する「徳島大学病院フォーラム2023春」(徳島大学病院主催、徳島新聞社共催)が23日、徳島市の徳島大蔵本キャンパスであり、同病院の医師7人が講演した。4年ぶりに対面形式で行われ、集まった市民ら440人が耳を傾けた。

2部構成で、第1部では脳神経内科などの3人が、認知症の鑑別や治療方法について解説した。脳神経外科の森垣龍馬医師は、有酸素運動が認知機能の改善に有効であることや、光刺激や超音波療法など新しい治療法の開発が進んでいることを紹介し、「認知症の未来は明るい」と語った。第2部では食道・乳腺甲状腺外科などの4人が、食道がん、乳がんの治療について話した。周産母子センターの峯田あゆか特任助教は、検診の普及で多くの先進国では子宮頸がんの死亡

者が減っているのに対し、日本では罹患者数も死亡数も増加傾向にあると指摘。4月からはより予防効果が高いとされる9価HPVワクチンが定期接種になることを説明し、「ワクチン接種と検診の徹底が、がん撲滅につながる」として、両輪での予防を呼び掛けた。講演の詳しい様子は3月20日～23日、27日～30日にケーブルテレビ「テレビトクシマ」で放送する。(中野愛子)



認知症の治療について話す森垣医師―徳島大蔵本キャンパス